

シーボルト門の人にして、殊に外科に達し、西洋外科を以て日本にて開業したる最初の人、伊東玄朴ととも
に、江戸幕府の末期に西洋科の侍醫として、權威ありたる人なり。西洋風の外科臨床科は戸塚氏より興れり。

一三八 醫療小道具入箱 一個

バタビヤ製なるべしと云ふことなり。

一三九 醫療器械入本箱 一個

メス鉋其他二十五個の器械を収めたり。

一四〇 醫療器械十二個入革サツク 一個

長崎縣立圖書館出品

一四一 外科用鋸 一個

長崎縣立圖書館出品

右五點はシーボルトが、其子楠木いね子に傳へたるものにして、長崎圖書館に寄託中のものなり。

四 繙帶學及び整形外科

歐西醫學の影響十分にして、それよりして漸次に發達したるものなり。こゝに擧ぐるもの、他、前
記檜林西・伊良子・華岡諸氏の著作にも皆同様のものを収めたり。

一四二 繙帶の卷 吉雄耕牛（一七二四—一八〇〇）著 著作

一卷 寫し

關場不二彦君この原本を藏せらる。卷末に吉雄氏自筆の自家肖像及び蘭字題言あり。

一四三 整骨卷木棉圖 華岡隨實（一七六〇—一八五三）著 著作

一卷 寫本

一四四 卷木棉圖式 著者？ 著作

一冊 寫本

一四五 正骨範 二宮猷著 刊行

一八〇七 二冊 刻本

整形外科に關する著述にして種々の術式を圖畫にし記載にしたり。

一四六 整骨新書 各務文獻（一七六五—一八二九）著 刊行

一八一〇 四冊 刻本

其首卷は各骨眞景圖にして人體諸骨格を圖にし又記載せり。

五 鍼灸科

支那より傳はり我日本に於て相當發達を遂げ、江戸幕府時代には此を官醫の一科とし、又一廉の學
者ありたり。

一四七 銅人形 飯村玄庵考案 製作

一六六三 一臺

飯村・秋田二氏の考案に基き、岩田傳兵衛製作し、又三郎の鑄造せるものにして、一七九七年に山崎宗運檢
攷修覆したり。松平頼英よりの獻品なり。

一四八 銅人形 製作 不詳 一臺

右は元江戸幕府の醫學館にありたるものにして、支那より渡來せしものなりと云ひ傳ふ。

富士川游出品
慶應義塾出品

吳秀三出品

吳秀三出品

東京帝室博物館出品

東京帝室博物館出品

一四九 明堂鍼灸 木製像 一臺

外箱の蓋裏に「寛政六年甲寅九月修繕之敍所齋置」と記せり。

齊藤興一郎出品

一五〇 岩靠集 著者不明 著作 一四二七 一冊 寫本

諸病につきて針科の點穴を載せたり。

吳秀三出品

一五一 鍼灸指掌 今村了庵著 刊行 一八六四 一冊 刻本

慶應義塾出品

一五三 愈穴解 村上宗占 著作 一七四二 二冊 寫本

富士川游出品

一五三 鍼灸説約 石坂宗哲著 年代 一八一二 一冊 刻本

富士川游出品

一五四 針灸知要 石坂宗哲著 年代 一八二六 一冊 刻本

吳秀三出品

鍼科醫として江戸幕府の侍醫たりし石坂氏の著にして、シボルトこれを翻譯して外國に發表せり。

六 藥物學

日本、支那にては本草學と稱へて盛に研究せられ、同時に植物學動物學又は金石學なり。日本に於ては西洋學の影響をも受けしならん。十八世紀の初より盛なる發達を遂げたり。

い 支那の書物

一五五 本草綱目 明の李時珍著 刊行 一六〇三 五十二卷、十七冊 刻本

東京帝室博物館出品

一五六 同 支那刻本

南葵文庫出品

一五七 同

日本刻本

白井光太郎君出品

支那古代よりの藥物一千五百十種に、自家の研究より三百七十四種を加へ、十六部門に分けて説明を加へ、産地形状、氣味主治附方を叙したり。

一五八 證類本草 宗の唐慎微著 刊行 一一九〇頃 二十冊

白井光太郎君出品

病氣によりて本草品類を排列し説明せるものにて、此書は嘉禎版（一五三〇頃）なり。

ろ 日本の書物

一五九 庶物類纂 稻生宜義（一六五五—一七一五）著 年代 一七一〇頃 四六九冊 寫

慶應義塾出品

稻生氏が加賀侯の命にて編輯せるもの、三百六十卷にて病みて死す。徳川吉宗が丹羽正伯に命じて、増補して一千卷に至れりと云ふ。

一六〇 大和本草 貝原篤信（一六三〇—一七一四）著 著作 一七一五 十九冊 刻本

南葵文庫出品

日本に於ける本草書の古きものゝ一にして、有名なる大學者貝原氏の著作なり。

一六一 本草綱目啓蒙 小野職博（一二七二九—一八一〇）著 著作 一八〇二 四十八冊

南葵文庫出品

小野氏は我邦の古本草學の代表的大家にして、其前の稻生松岡二氏の説に參酌して、本草綱目を日本文に註

解し自家の實驗を加へたり。

一六一 本草圖譜 岩崎常正(一七八六—一八四二)著 年代 一八二八 九三冊 刻本
白井光太郎君出品

一六三 本草圖譜 岩崎常正(一七八六—一八四二)著 年代 一八二八 二冊
吳秀三出品

著者の自畫自筆なり。

一六四 本草圖說 飯沼長順(一七八二—一八六五)著 年代 一八五六 三十冊 刻本
白井光太郎君出品

同未刻分 十三冊 寫本

我邦本草學者の著作したる西洋學說の入りし後の植物分類書にして、我邦の草木は殆んど遺すことなく記載せり。

一六五 百鳥譜 殘缺 栗本瑞見(一七五六—一八三四)著 一幅 著者自畫
白井光太郎君出品

は 特に治療に關する意味に於て

一六六 本草綱目附方分類 山脇玄修(一六五四—一七二七)著 年代 一六八八 一五冊 寫本
白井光太郎君出品

本草綱目の附方を病症により分類して記載したるなり。

一六六 一本堂藥選 同續 香川修徳(一六八三—一七五五)著 年代 一七三一—一三八
四冊 刻本 吳秀三出品

古方家の大家たる香川氏が漢藥を系統的に説述したるなり。

一六八 藥 雅 多紀元胤(一八一五—一八六三)著 年代 一八二七 一冊 寫本
吳秀三出品

に 西洋學の直接影響を受けたる書物

一六九 藥治通義 多紀元堅(一七九四—一八五七)著 年代 一八三九 五冊 寫本
吳秀三出品

此書は考證派の大家たる多紀氏が自筆の原本にして、此書は一本堂藥選とともに漢方醫の著はせる藥物學の二大著といふべし。

一七〇 像野呂元丈(一六九三—一七六一) 吳秀三出品

野呂氏は青木昆陽と共に徳川吉宗の命によりて、江戸方面にて最初に和蘭學を講述せし人なり。其頃毎年和蘭人に從ひて上京する醫師、ムンクルスにつきて植物藥物のことを質問したるを筆記して、「和蘭本草和解」としり。是れ西洋本草學の嚆矢なり。

一七一 阿蘭陀本草和解 野呂元丈著 年代 七四二—四八 二冊寫本
白井光太郎君出品

一七二 和蘭藥鏡 宇田川玄眞(一七六九—一八三四)著 三冊 刻本
富士川游出品

- 一七三 増補和蘭藥鏡 宇田川榕庵著 年代作 一八三〇 十八冊 刻本
- 一七四 遠西醫方名物考 宇田川玄眞著 年代行 一八二三 三十六冊 刻本

富士川游君出品

此の書ありて西洋の藥品方劑製煉等初めて明らかとなりたり。

七 内 科 學

漢方醫學に於ては内科の専門書は少なく、多くは諸科を通じて一般に記載せられ、各科其一部分をなせり。内科の名は蓋し蘭方より始まりたるなり。前に挙げたる素問靈樞傷寒論金匱要略に關するもの又此に屬すべし。

い 漢方醫の著書として(和蘭醫學の影響あれど)

- 一七五 内科秘錄 本間玄調(一八〇四—一八七二)著 年代行 一八三七 十四冊

吳秀三出品

徳川末期の外科大家として有名なる本間氏の内科書なり。主として漢方にして蘭方を交ふ。

ろ 西洋醫方たる内科の書物

- 一七六 内科選要 宇田川玄隨(一七五五—一七九九)著 年代作 一七九二 六冊 刻本

吳秀三出品

和蘭内科書翻譯の嚆矢なり。

- 一七七 醫方研幾 足立長傷著 年代行 一八三一 五冊 刻本

京都帝國大學圖書館出品

- 一七八 醫療正始 伊東玄朴(一八〇〇—一八七一)著 年代行 一八三五 廿四卷十冊 刻本

吳秀三出品

西洋内科書の反譯にして比較的後に出でたり。

- 一七九 泰西名醫彙講 箕作阮甫(一七九九—一八六三)著 年代行 一八三六 三冊 刻本

武藤長藏君出品

- 一八〇 マンスフェルド氏病理論 著作 年代 一八六五 二冊 寫本

吳秀三出品

- 一八一 伊東玄朴(一八〇〇—一八七一)

シーボルト門の人にして殊に内科に長じ、西洋外科を以つて、江戸幕府末期最初の西洋科の侍醫にして盛名あり。近世西洋内科の始祖なり。日本内科はシーボルト以來今日の如き實地臨床的のものとなれり。

- 一八二 藥籠 一個 シーボルト遺愛

長崎縣立圖書館

和蘭本國製のナイフ箱を利用したるものにて、藥瓶も亦香水瓶等を利用したるものゝ如し。

は 漢方内科に於ける特殊の分域單行本

- 一八三 癩癪狂經驗篇 土田猷著 年代行 一八一八 一冊 刻本

吳秀三出品

精神病の治驗録なり。

- 一八四 憂難錄 柘植彰常著 年代行 一八〇三 五冊 刻本

京都帝國大學圖書館出品

- 一八五 虻病發蘊 積谷駿著 年代行 一八三六 三冊 刻本

富士川游出品

- 一八六 虻志 喜多村直寛著 年代行 一八四九 一冊 刻本

京都帝國大學圖書館出品

右三種は何れも蝸蟲に關する専門書なり。

八 診 斷 學

診斷につきては漢方にも種々の成書あり。今徳川時代に注意を集めたる腹診につきて、特別の著書一二を擧げて、後に西洋醫方に關する著書を擧ぐべし。

い 漢 方

- 一八七 人相千古年眼 平澤白翁著 年代 一八五〇 五冊 刻本 慶應義塾出品
 - 一八八 腹證奇覽 同後篇 稻葉文禮著 年代 一八〇一—一八〇九 三冊 刻本 帝國圖書館出品
 - 一八九 腹證奇覽翼 同二篇 和久田寅著 年代 一八〇九—一八三三 四冊 刻本 帝國圖書館出品
 - 一九〇 四診備要 細井順著 年代 一八一八 二冊 刻本 吳秀三出品
 - 一九一 舌胎圖說 土田恕庵著 年代 一八三五 一冊 寫本 富士川游出品
 - 一九二 察病通義 多紀元堅(一七九四—一八五七)著 年代? 二冊 寫本(著者自筆) 吳秀三出品
- ろ 蘭 法
- 一九二 因液發備 吉雄耕牛(一七二四—一八〇〇)著 年代 一八一五 二冊 刻本 本邦に於ける西洋診斷學の嚆矢なり。尿検査等一部の診斷法なり。

本邦に於ける西洋診斷學の嚆矢なり。尿検査等一部の診斷法なり。

- 一九四 五液診法 江馬春齡(一七四七—一八三八)著 年代 一八一六 富士川游出品
 - 一九五 察病龜鑑 青木周弼(一八〇五—一八六〇)著 年代 一八五七 三冊 吳秀三出品
- 西洋診斷學の一般に互れるもの、嚆矢なり。
- 一九六 聽陶器 一具 嘉永元年(西曆一八四八)Mohlre 氏が日本渡來の折齎らし來りしものなり。但此頃此他に和蘭通詞品川永久(一八〇八—一八五七)の模造したるものありたりといふ。

九 治 療 學

い 漢方醫家の治療學書

- 一九七 施治擊要 田宮尙施著 年代 一八五七 九冊 刻本 吳秀三出品
 - 一九八 奥村良筑(一六八七—一七六一) 漢方醫學に於ける諸の治療法を系統的に記述したるものにして、極めて該博にして又有益なり。 吳秀三出品
- 十八世紀の末に古方家大に起り(實曆明和の頃)汗吐下を治療の三要件として研究し、山脇等諸家は汗下を知りながら、いまだ吐方も辨へず。奥村氏は瓜蒂を發明して三法こゝに備はりたり。その門人にて、永富菰野二氏古方家にてありながら西洋醫方を採用し、永富は乳巖摘出術を稱へて、華岡等外科醫家を刺戟し、永富菰野ともに刺絡を好みてなせり。

一九九 吐方考 永富鳳(一七三二—一七六六)著 刊行 一七六三 一冊 刻本 吳秀三出品

二〇〇 吐方篇 荻野元凱(一七三七—一八〇六)著 刊行 一七六四 一冊 刻本 吳秀三出品

二〇一 刺絡篇 荻野元凱著 刊行 一七七〇 一冊 刻本 吳秀三出品

二〇二 刺絡聞見錄 三輪東湖著 刊行 一八〇五 一冊 刻本 吳秀三出品

二〇三 溫泉論 柘植彰常著 刊行 一八〇九 三冊 刻本 吳秀三出品

漢方醫にして温泉の効用を細かに論述せるなり。

ろ 蘭方醫家の治療方書

二〇四 八刺精要 佐々木仲澤(一七九〇—一八四六)著 刊行 一八二五 一冊 刻本 富士川游出品

大槻玄澤の瘍醫新書中の一冊子を増譯したるなり。

二〇五 濟生三方 杉田成卿(一八一七—一八五九)著 刊行 一八六一 三冊 刻本 富士川游出品

Chr. W. Hufeland. O Enchiridion medicum. 1833 (蘭譯) O De drie Hoofdindelen der geneeskunde (三主要藥)を反譯せるもの。



二〇六 同 杉田成卿自筆寫本 筆寫 一八四五年八月 一冊 寫本 富士川游出品

二〇七 同 獨乙文原書 刊行 一八三五 一冊 刻本 富士川游出品

A. J. Houzai 日本人 刊行 一八五八 一冊 刻本 日本版 安政五年 富士川游出品

十 婦人科

い 漢方醫の婦人科著書

二〇八 女科廣要 多紀元堅(一七九四—一八五七)著 著作 一八五六 五卷 吳秀三出品

(産科著書に收む)

二〇九 婦人良方 宗の陳自明著 著作 一二三七 二四卷 刻本 帝國圖書館出品

宋時代迄の支那醫書により八門數十章に分けて婦人病を論じたり。

二一〇 婦人壽草 香月啓益(一六五六—一七四〇)著 刊行 一六九二 四冊 刻本 慶應義塾出品

ろ 西洋醫方の婦人科著書

二一一 婦人病論 船曳卓堂著 刊行 一八五〇 六冊 刻本 富士川游出品

本邦に於ける西洋婦人科産科學の嚆矢にして、ブレンキの婦人科學を翻譯せるものなり。

十一 小兒科

二一二 小兒必用記 香川啓益(一六五六—一七四〇)著 刊行 一七二四 六冊 刻本

本邦に於ける漢方醫流小兒科學書の隨一なり。

二二三 幼々精義 堀内素堂(一八〇一—一八五四)著 刊行 一八四三

本邦に於ける西洋小兒科學書の嚆矢なり。

十二 眼 科 學

二二四 會士生玄碩(一七六八—一八五四)

吳秀三出品

士生氏は漢方眼科醫にして蘭説をき、樋口上田・島路家とともに虹彩切除術を行ひしが、士生氏は學と術とに於て最も優れたるが如し。シーボルト來朝の時、士生氏の手術を見て、それがセセルデンの手術と符合せるに驚きたりといふ。

二二五 士生玄碩先生第五十年記念會記事 刊行 一九一四 一冊 刻本 吳秀三出品

二二六 眼科錦囊 本庄普一著 著作 正一八三九 六冊 刻本

漢方眼科に蘭法眼科を折衷したるものなり。

二二七 眼科撰要 樋口子星著 著作 一八二三 一冊 刻本 富士川游出品

二二八 眼科新書 杉田立卿(一七八六—一八四六)著 刊行 一八一五 六冊 刻本 吳秀三出品

ブレンクの眼科書より翻譯したるものなり。

二一九 日本眼科學史 小川劍三郎著 一九〇四 一冊 活版

吳秀三出品

二二〇 シーボルト傳來眼科器械 一箱

伊東祐彦君出品

シーボルトが舊米澤藩侍醫伊東昇通に與へたるものなり。日本の眼科は主としてシーボルト以來今日の如き實地臨床的のものとなれり。

十三 痘 瘡 學

い 漢方醫學として痘瘡に關する著述

二二二 會池田瑞仙(一七三四—一八一六)

吳秀三出品

池田氏の曾祖正直が、明人戴曼公を師として痘科を學び、子孫代代これを専門として、研究を續け瑞仙に至りて其名最も著はれ、江戸幕府醫學館の教授となる。

二二三 痘科辨要 同續 池田瑞仙著 刊行 一八二一—一八二七 九冊刻本 吳秀三出品

二二三 痘瘡唇舌圖 池田瑞仙著 著作 一七八八 一冊 寫本 吳秀三出品

池田瑞仙自筆の序あり。

二二四 痘瘡唇舌傳 池田瑞仙著 著作 一七八八 一冊 寫本 吳秀三出品

痘瘡者の舌苔につき種々の寫生圖なり。

二二五 痘瘡面部傳 池田瑞仙著 著作 一七八八 一冊 寫本 吳秀三出品

痘瘡者の顔面につきその種々の寫生圖なり。

ろ 漢蘭の種痘法

- 二二六 引痘新法全書 清の邱浩川著 年代 一八三一 二冊 刻本 慶應義塾出品
- 二二七 引痘新法、同附録 小山肆成著 年代 一八四七 三冊 刻本 富士川游出品
- 二二八 引痘要略解 桑田立齋著 年代 一八四九 一冊 刻本 富士川游出品
- 二二九 補憾錄 三宅春齡著 年代 一八五〇 三冊 刻本 吳秀三出品
- 二三〇 接痘瑣言 武谷祐之(一八二〇—一八九四)著 年代 一八四六 一冊 寫本 武谷水城君用品

武谷祐之の自筆なり。

- 二三一 牛痘告諭 武谷祐之著 年代 一八四九 一冊 刻本 武谷水城君用品

は 除痘の宣傳

- 二二二 疱瘡養生草 一枚 富士川游出品
- 二二三 疱瘡病者の養生法を示すために書きたる、通俗的の票帖(宣傳書)にして、かゝるものはすべて紅色に印刷するを例とす。 富士川游出品
- 二二四 疱瘡紅繪本 京山作藤鶴整湯著・岡山島作紅繪小供遊 三種 富士川游出品

二二二 疱瘡錦繪

疱瘡病に罹りたる兒童の鬢弄に供ふる錦繪にしてかゝるものは、すべて紅色に印刷するを例とす。

- 二二五 引痘票帖 屏風一双 三宅勝子出品

嘉永二年(西曆一八四九)にジェンナーの種痘法が始めて我邦に入りたる時、種痘勧誘のために、その功を宣傳するに用ひたるものあり。

- 二三六 麻疹錦繪 十枚 富士川游出品

麻疹病の養生法を通俗的に示せる票帖、即ち宣傳書。

十四 微毒學

- 二三七 微瘡秘録 不破元澄 年代 一七二五 一冊 寫本 伊良子光義君用品
- 二三八 微瘡新書 片倉鶴陵著 年代 一七八六 二冊 刻本 帝國圖書館出品
- 二三九 微瘡新書 杉田立卿(一七八六—一八四六)著 年代 一八二一 五冊 刻本 富士川游出品

漢方醫家の微毒癩病に關する著述なり。

十五 軍陣醫學

- 二四〇 軍陣醫學 原昌克(一七五三—一八二〇)著 年代 一八二〇 一冊 富士川游出品

二四一 續岩草 菅生茅山著 刊行 一八五三 一冊 富士川游出品
二四二 軍陣救急摘要 平野元良著 刊行 一八五三 一冊 刻本 慶應義塾出品

漢方醫流の軍陣外科書なり。

二四三 銳劍瑣言 大槻俊齋(一八〇六—一八六二)著 刊行 一八五四 一冊 富士川游出品

西洋軍陣醫學書の嚆矢あり。

十六 法 醫學

二四四 洗冤錄 宋の宗慈著 著作 一二四七 四冊 刻本 岡田信利君出品

二四五 無冤錄 元の王與著 著作 一三〇八 一冊 刻本 岡田信利君出品

二四六 無冤錄 元の王與者 著作 一三〇八 一冊 刻本 朝鮮版 岡田信利君出品

二四七 無冤錄述 河合尙久著 著作 一七三六 二冊 岡田信利君出品

無冤錄の抄譯なり。

十七 其他醫學に近接せる科學

二四八 氣海觀瀾 青地林宗(一七七五—一八三三)著 著作 一八二七 吳秀三出品

二四九 氣海觀瀾廣義 川本幸民(一八一〇—一八七一)著 著作 一八五〇 五冊 吳秀三出品

二五〇 理學提要 廣瀨元恭(一八二一—一八七〇)著 刊行 一八五六 四冊 富士川游出品

右は物理學に關するもの。

二五一 舍密開宗 宇田川榕庵(一七九八—一八四六)著 刊行 一八三七 一冊

二五二 舍密保覽 河野禎造(一八一七—一八七一)著 刊行 一八五六 十二表 武谷水城君出品

右は化學に關する最初の譯書なり。

二五三 植學啓原 宇田川榕庵(一七九八—一八四六)著 刊行 一八三三 一冊

右は植物學に關する最初の譯書なり。

二五四 醫原樞要 高野長英(一八〇四—一八五〇)著 著作 一八三二 富士川游三出品

二五五 ボルドゥイン人身窮理 ボウトゥイン口述の筆記 著作 年代? 武藤長藏君出品

二五六 傳高野長英(一八〇四—一八五〇) 著作 年代? 吳秀三出品

シーボルト門の人にして殊に蘭語學に達し、西洋の生理學書を最初に翻譯し、諸藩に蘭學を講ぜり。蘭學者として國事犯に問はれしを以て有名なり。

二五七 病學通論 緒方洪庵(一八一〇—一八六三)著 刊行 一八四七

病理學翻譯書の嚆矢なり。

二五八 顯微鏡 二臺

白井光太郎君出品

右は徳川幕府時代の末期に我邦に入りたるものにして、其一臺は或は本邦にて製造せられしものか。二臺とも形状構造等紅毛雜話に載する顯微鏡(ミコラスコーピユン)の圖に髣髴たり。

二五九 紅毛雜話 森島中良著 刊行 一七八七 五冊

白井光太郎君出品

十八 一般洋學に關して

二六〇 曾徳川吉宗(一六八四—一七五二)

吳秀三出品

吉宗は徳川幕府第八代の將軍にして、天文研究より和蘭の學問を尊び、和蘭書物の禁制を解き、自からも西洋の技藝に親しみ、又臣下をしてその學藝を研究せしめたり。青木教書・野呂元丈など皆吉宗の命にて外國の事を取調べたるなり。

二六一 蘭學事始 杉田玄白(一七三三—一八一七)著 刊行 一八六九 二冊 刻本

吳秀三出品

杉田玄白が蘭學研究の當初に於ける狀況を記載せるものにて、其當時如何なる苦心を以つて先輩が之に従事したるかを想見すべし。

二六二 曾新井白石(一六五七—一七二五)

吳秀三出品

幕府の儒官として我邦著名の大學者として、初めて西洋の地理事狀を西洋人につきて、直接に質問して江戸に於ける洋學の權輿をなせし人なり。

二六三 蘭學階梯 大槻玄澤(一七五七—一八二七)著 刊行 一七八八 三冊 刻本

吳秀三出品

二六四 江戸ハルマ 海上隨鸕ウナギミキオウ(一七七四—一八一)著 刊行 一七九六 首尾 二冊

大槻如燮君出品

日蘭對譯字書の嚆矢なり。

二六五 ツインハルマ 首尾 二冊

大槻如燮君出品

二六六 同 十九冊の内一冊

長崎縣立圖書館出品

和蘭商館長ツーフ監督にて和蘭通詞吉雄權之助(永保)等通詞圖の撰述せるものなり。此書は大通詞中山作三郎の自筆にして、其孫中山知雄氏より長崎圖書館へ寄託中のものなり。

二六七 和蘭譯鍵 藤林淳道(一七八五—一八三六)著 刊行 一八五七 五冊 刻本

京都帝國大學圖書館出品

二六八 同 寛政八年(西曆一七九六)宇田川捨園捲 著作

文化七年(西曆一八一〇)藤林淳道、小森玄良再刻せるなり。

二六九 蘭學選 藤林淳道(一七八五—一八三六)著 著作 一八一〇 一冊

京都帝國大學圖書館出品

蘭語の文法初歩なり。

二七〇 英語箋 井上修理校正 著作 一八五五 二冊 刻本

富士川游出品

英和對譯字書なり。

二七一 三語便覽 村上英俊著 年代 一八五六 三冊 刻本

富士川游用品

佛英蘭・白山國の對譯字書なり。

二七二 采覽異言 新井君美(一六五七—一七二五)著 年代 一七一五 一冊 寫本

吳秀三出品

新井氏が伊太利人シドツチ Siodzi(一六六八—一七一五)に就きて西洋地理の事を問ひたるを記せしなり。

二七三 增譯采覽異言 山村才助(一七七〇—一八〇七)著 年代 一八〇四 十四冊 寫本

吳秀三出品

白石の采覽異言を増補せるものなり。

二七三 輿地誌略 青地林宗(一七七五—一八三三)著 年代 著

八冊 寫本

吳秀三出品

此書は青地氏自筆にして箕作阮甫舊藏なり。

二七五 坤輿圖識、同補 箕作省吾(一八二二—一八四六)著 年代 刊行 一八四五—六 七冊

吳秀三出品

世界の地誌刻本の嚆矢にして、當時の學者は此爲に其地理に關する知識大に開發せられたり。

二七六 八紘通志 箕作阮甫(一七九九—一八六三)著 年代 刊行 一八五一—五五 六冊

吳秀三出品

世界地誌中歐羅巴の部なり。

第四 外人の部

歐米の醫家にて我國に來り、我邦を歐米に紹介し、又直接間接に、我醫界に影響を與へたる諸氏及び關係者の著述等を集めたり。

一 タンヌム E. Kämpfer

二七七 Kämpfer, E., The history of Japan with an account of the ancient and present state and government of that empire. Translated from the high deutsch manuscript of the author. By J. J. Scheuchzer. London, 1727—8. 2 vols. 帝國圖書館出品

二七八 Kämpfer, E., Histoire naturelle, et ecclesiastique de l'Empire du Japon.

Tr. en Fr. sur la version angl. de Jean-Gas par Scheuchze. Amsterdan, 1732. 3vols.

東京帝國大學圖書館出品

本書はもと英國大使 Sawo 氏の所藏なりしが、後に Chamberlain 氏の所有に移り、更に Murdoch 氏に移り、近く Murdoch 氏より東京帝國大學に寄贈されたるものなり。

二七九 Kämpfer, E., Geschichte und Beschreibung von Japan. Lemgo, 1777. 2vols.

國邊亞細亞研究會出品

二八〇 Kämpfer, Icones selectae plantarum quas in Japonia collegit at delineavit. Kōndin, 1791,

四六
關邊亞細亞研究會出品

二八一 ケンネル日本誌のタイトルルヘーシ其他の寫眞七枚

二八二 出島花園之碑

一軸
白井光太郎君出品
ケンネルが長崎の出島に於て、彼の前輩たるケンネル、トゥーレンベルグの功績を記念するために建てたる石碑の石摺なり。此碑は今長崎の諏訪公園内、縣立圖書館門前にあり。

二 トゥーレンベルグ C. P. Thunberg.

二八三 Thunberg, C. P., Travels in Europe, Africa and Asia. 4vols.

長崎縣立圖書館出品

二八四 Thunberg, K. P., Reisen in Africa and Asien, vorzüglich in Japan, während der Jahre 1772-1779, auszugsweise übersetzt von K. Sprengel. Berlin 1792. 2vols.

長崎縣立圖書館出品

二八五 Voyage de S.C. P. Thunberg au Japon, pendant les années. 1770-1779. Paris 1794.

帝國圖書館出品

二八六 Thunberg, Flom Japonica. Lipsae. 1784

關邊亞細亞研究會出品

二八七 トゥーレンベルグ東洋紀行タイトルルヘーシ其他の寫眞五枚

東洋文庫出品

三 シーボルト Ph. Fr. v. Siebold.

二八八 像 肖 シーボルト(一七九六—一八六六)

二面 吳秀三出品

二八九 像 肖 シーボルト 岩崎常正書 一幅

白井光太郎君出品

シーボルトが一八三三年江戸参府の折、江戸の本草學者岩崎氏が、之に面會せるとき描きたるものにして、同氏の自筆なり。シーボルトは此時二十八歳なり。

二九〇 シーボルト芝居見物の圖 鶴倍畫

白井光太郎君出品

鶴倍と云ふ畫師、大阪にて芝居見物中、蘭人三名の見取圖(自筆)なり。中央にて足に纏帶せるは和蘭使節にして、左に黒き服にて立てるがシーボルトなり。足に纏帶せるが使節なることは、多紀氏の隨筆「時還讀我書」によつて知る。

二九一 シーボルト夫人書簡 三枚一組 一通

長崎縣立圖書館出品

二九二 シーボルト傳記一綴

吳秀三出品

シーボルト 吳秀三著 代年 一八九六 一冊

H. v. Siebold, Ph. Fr. v. Siebold, sein Leben und Wirken. 1909.

Tan Kate, Erinnerungen an Ph. Fr. v. Siebold. 1901.

A. v. Siebold, Ph. Fr., v. Siebold, letzte Reise nach Japan, 1902.

Ph. F. von Siebold, Nekrolog z. s. seinem hundertjähr. Geburtstagesfeiers, Ostasiat, Lloyd. 1896.

Bjerveald, Verloren Gloria. 1923.

左にシーボルト及び關係者の著書二三を擧ぐ

- 二九三 v. Siebold, Nippon. Archiv für Beschreibung von Japan und dessen Neben- und Schutzländern. Leyden, 1828. 2vols. 五冊
東京帝國大學圖書館出品
 - 二九四 v. Siebold, Flora Japonica. Lugduni Batavorum. 1870. 2vols. 獨逸亞細亞研究所出品
 - 二九五 v. Siebold, Fauna Japonica. Lugduni Batavorum. 1838. 5vol. 獨逸亞細亞研究所出品
 - 二九六 慶賀寫真筆 川原慶賀著 刊行 八六三 二冊 吳秀三出品
 - 二九七 草木花實寫真圖譜 川原慶賀著 四冊 吳秀三出品
- 右はシーボルトの爲に繪師として、助手なりし川原慶賀筆の植物圖譜なり。
- 四 * n y T. L. C. Pompe van Meerdervoort
Pompe. von Meerdervoort, Vijf jaren in Japan. (1857-1863) Leiden. 1867.
長崎縣立圖書館出品

第五類

- 二九八 Hippocrates. Ten megalen Ippokratous panton ton iatrou koryphalon ta enristikonem. Megni Hippokratidis medicorum omnium fecite principis. Francofurti, Andreae Wecheli haereds. 1595.
歐羅巴より印刷されたもの。希臘文の Hippocrates と同じで、最古のものなり。本書も、醫學士故鈴木文雄氏の贈する所。遺族より本館に寄贈せらる。
- 東京帝國大學圖書館出品

- 三〇〇 チンチング日本雜記タイマンニシニ枚の寫真 東洋文庫出品
- 三〇一 E. Buys, Nieuw en volkomen Woordenboek van Konsten en Wetenschappen. Amsterdam. 1778. 8vols. 三瀬産之進君出品
- 三〇二 F. Doekereiner, Chemische Schule der Pharmacie. Leipzig. 1861. 1vol. 三瀬産之進君出品
- 三〇三 L. Hermann, Grundriss der Physiologie. Berlin. 1874. 1vol. 三瀬産之進君出品
- 三〇四 Goffres, Handboek van de leer der Veranden en Verhandinstrumenten. Amsterdam. 1858. 1vol. 三瀬産之進君出品
- 三〇五 R. Dunglison, A dictionary of medical science. Philadelphia. 1868. 1vol. 三瀬産之進君出品
- 三〇六 J. P. Maygnier, Volledige verzameling van Afbeeldingen uit den geheelen omvang der theoretische en praktische Verloskunde. Omgewerkt en vermeerderd door E. C. J. von Siebold. Amsterdam. 1838. 1vol. 三瀬産之進君出品
- 三〇七 右六點はシーボルトが、門入三瀬諸淵に贈與せしものなりと云ふ。
曾三瀬諸淵 寫真 三瀬産之進君出品
- 三〇八 J. A. Hes, Gezondheidsleer en herstel der tanden. Utrecht en Amsterdam. 1867. 1vol. 四六

ノス氏齒衛生學及造齒術
三〇九 J. W. Gunning, Lehrbuch der Zahnkunde, 1 vol.

五〇
武藤長藏君出品
武藤長藏君出品

其他締切間際にて混雜のため、或は附帯も可有之その品御所有の方々には何分の御容赦有之度候

富士川遊
奥秀三

日本醫學歴史資料展覽目錄終

950

